

平成 31 年度個別学力検査等(前期日程)
「ドイツ語)」 出題の意図

(1 枚/全 2 枚)

[I - ①]

本問題に関し、文法面では、以下の文法項目を受験者が十全に理解しているかについてチェックすることが出題の意図である。(1)不定関係代名詞 **wer** および **was**、(2)話法の助動詞 **können** および未来(推量)の助動詞 **werden**、(3)前文の内容を示す代名詞 **das**、(4)再帰動詞 **sich präsentieren**、(5)熟語 **an et. liegen** の用法。

内容理解の面では、日本を訪問する外国人が、日本に異国趣味を求めて来日すること、そしてそのような感慨が、実はしばしば異文化に対する先入観によるものである、という著者の主張を受験者が理解出来ているかどうかを問うことが出題の意図である。

[I - ②]

本問題に関し、文法面では、以下の文法項目を受験者が十全に理解しているかについてチェックすることが出題の意図である。(1) 熟語 **scheinen+zu+不定詞**、(2)主語がかなり後ろに配置され、補語が文末に置かれた構文、(3)話法の助動詞と受動態の組み合わせさせた文法形式。

内容理解の面では、写真は現実を再現する客観的な手段である、という素朴な認識を著者が問題視し、実際の所カメラの使用法により、また画像の一部を切り取る操作や加工によって、実は様々な情報操作が可能であるということについて、著者が警鐘を鳴らしていることを、受験者がどの程度読み取れるかを見ることが出題の意図である。

[II]

題材となっているドイツ文は、今日よく知られているマシュマロ実験の追跡調査について紹介し、自制心のもつ意味について論じたものである。設問①は、文章の前半、とりわけ最初のパラグラフで説明されている実験の概要について、ドイツ文を正確に理解し、それをまとめることができるか問う問題である。設問②は、文章の後半で説明されているこの実験の予見の力について、やや高度な単語があったとしてもドイツ文の大意を掴むことができるかを問う問題である。

平成 31 年度個別学力検査等(前期日程)

「ドイツ語」 出題の意図

(2 枚/全 2 枚)

[Ⅲ]

下記諸点について基本的な文法力が身についているかどうかを問うことが本問の意図である：形容詞が名詞化した場合の複数形の作り方、および話法の助動詞の現在人称変化について理解ができていないか。現在完了の作り方 (**haben** 支配/**sein** 支配、語順)、および非分離前綴をもつ強変化動詞の過去分詞の作り方を理解しているか。再帰動詞を用いた基本的な慣用表現に習熟しているか。先行詞を見きわめて、それにふさわしい関係代名詞を使って正しく関係文を作ることが出来るかどうか。受動態の作り方 (助動詞 **werden**、語順、動作主の指示)、および冠詞・形容詞・名詞の必要な格変化を理解しているか。**zu** 不定詞句の作り方とその用い方を理解しているか。

[Ⅳ]

本問は、まとまった考えを適切なドイツ語で表現できるかどうかを問う問題である。日本語を自分の使える表現に解釈する能力も試される。知っている単語を並べるだけでなく、文法規則にのっとって正しい構文で書く事が求められている。基本的かつ十分な語彙と文法項目に習熟し、それらを総合的に駆使しながらドイツ語で表現する練習を日頃行っているかどうかを確認することが本問の出題の意図である。